

ペテロの手紙 第一5:1-7

1 ペテロ 5:1 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現れる栄光にあずかる者として、お勧めします。

ここからペテロは謙虚さについて話します。

そこで、教会の長老たちに話す際、自分は「同じく長老のひとり」、つまり他の長老たちと同じ立場だと謙虚に語ります。使徒のひとりであり、イエスに選ばれた12弟子のひとりであるにもかかわらず、自分が他の人たちより優れているとは思っていませんでした。ペテロの話を知っている人もいるでしょう。

ペテロは主を3度知らないと言って、主に対して罪を犯しました。

こうしてペテロはへりくだることを学ばされ、「**やがて現れる栄光にあずかる者**」であることをただ感謝するに至りました。

やがて現れる栄光とは、天国とやがて来るキリストの御国を待ち望む希望を指します。

ペテロは長老たちを次のように励まします。

1 ペテロ 5:2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。

牧するという表現ですが、これは当時のこの文化ではよく使われた表現です。たとえば、当時のイスラエルの羊飼いは、羊の前を歩いて羊を導きました。そして、羊のために食物となる牧草や飲み水を探します。また、休める安全な場所も探します。そしてもちろん、常に羊を危険から守ろうと見張ります。ですから、

#1) 教会の指導者も、神の民を同じように導かなければなりません。それは、養い、守り、導くことです。

また

#2) クリスチャンの指導者は、神に属する群れの世話をする責任が与えられていることを忘れてはなりません。

自分に属する群れではありません。神の群れは誰か他の人に属するものではありません。教会のリーダーは、真の牧者でありすべてのたましいを守るお方のもとで働く僕にすぎません。そのお方とは、良い牧者なるイエス・キリストです。ですから、イエスを見習い、強制されて奉仕をしないように気をつけたいといけません。奉仕の働きは義務感だけでなく、喜びをもってなされるべきです。正直なところ、私もそうするのが難しいと思うときがあります。なぜなら、こちらの言うことに耳を貸してくれない羊が中にはいるからです。道を踏み外そうとするのです。そんな姿を見るたびに心が痛みます。とても悲しくなりますし、やる気がなくなります。ペテロもここで、リーダーは自分の私利私欲のために仕えるべきではないと言います。

私自身、お金のためなら牧会の奉仕などに入らなかったでしょう。お金を稼ぎたければ、カリフォルニアの高校教師の職を辞めはしませんでした。

クリスチャンは主のみこころを行うことに専心し、すべての必要を主が満たしてくださることを信頼したいものです。使徒パウロもこのように勧めます。

ピリピ 4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

クリスチャンのリーダーは、お金儲けのために働きをするべきではありません。むしろ、主に対する愛と群れに対する愛が働きの動機であるべきです。

ペテロが主を3度知らないと言った後のできごとです。ヨハネ21章で、イエスはよみがえられた後、ペテロの前に姿を現されました。そして、ペテロに3度、わたしを愛しますか、と尋ねられます。ペテロが3度知らないと言ったからでしょうか。

ペテロは3度答えました。

「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたご存じです。」

イエスは答えられました。

「わたしの小羊を飼いなさい。」

「わたしの羊を牧しなさい。」

「わたしの羊を飼いなさい。」

ここで、ペテロは長老たちに同じことを勧めています。もしあなたがたが主を愛しているなら、

1ペテロ 5:2-3 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのはなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。

3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

長老は、模範となるように召されています。長老の中には、模範となっている人もいれば、あまりそうとは言えない人もいるでしょう。では、どうすれば良い模範となれるのでしょうか。パウロは言いました。

1コリント 11:1 私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。

テモテに向けてはこう書きました。

2テモテ 2:2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。

1ペテロ 5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠を受けます。

イエスが私たちの大牧者です。私たちの模範です。

もし羊が羊飼いの言うことをまったく聞かず、いつも逃げ出すなら、羊飼いはその足をわざと折って逃げられないようにします。そして、骨折が治るまで、羊飼いはその羊を担いで運びます。すると、その羊は二度と逃げ出そうとしません。イエスが私たちの大牧者です。私たちはその下で働く羊飼いです。ですから、誰の足も折ってはいけません。でも、たまに足を折ってやりたいと思う人もいます！（もちろん冗談です！）主は、私たちがそのような方法で人を導くことを望んでおられません。私たちが誰に対しても威張るのではなく、むしろ、模範となるようにと願われます。けれども、気をつけてください。もしあなた

が主の言うことを聞かないなら、主があなたの足を折るような導き方をされるかもしれません。本当に、どのような方法であっても、私たちが主の言われることに注意を払うようにされます。

1ペテロ 5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

「長老たちに従いなさい。」とあります。私たちはなぜ誰かに従わなければならないのでしょうか。ヘブル人への手紙の著者は次のように言っています。

ヘブル 13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。

羊が耳を傾けてくれるなら、…牧師の仕事は喜びの多いものです。でも、聞いてくれないと、…とても悲しいです！教会の指導者だけが悲しむのではなく、聞き従わない羊本人にとっても悲しみとなります。

「そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」神のみこころにそった助言に耳を傾けないことは、その人にとって益となりません。ペテロが言っているのは、あなたのたましいをケアする責任を託された人の立場を尊重しなさい、ということです。その人が、聖書的でないことをあなたに勧めるなら、もちろん聞いてはいけません。けれども、もし聖書の教えに沿ったアドバイスをしてくれているなら、それを受け取って、実行しましょう。不平不満を言わないようにしましょう。「そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」聖書の教えに沿ったアドバイスに耳を傾けたくない理由は何でしょう。多くの場合、プライドが邪魔をしていることがあります。ペテロはプライドについてこのように警告します。

1ペテロ 5:5b 「神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」

箴言 16:18 高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。

私たちが油断していると、プライドによって破滅させられる可能性があります。では、おごり高ぶらないようにするにはどうすればよいのでしょうか。プライドの正反対のことを実践すればよいのです。つまり、謙虚さです。ペテロはこのように続けます。

1ペテロ 5:6-7 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

神があなたのことを心配してくださることを確信しましょう。心配事や悩みごとをすべて主にゆだねましょう。神があなたのことを本当に心にかけてくださり、助けたいと思ってくださるからです。あなたが落ち込んでいると、主はあなたを立ち上がらせたいと思ってくださいます。けれども、助けが必要だと認めるには、謙虚さが必要です。

こんなふう思う人もいるでしょう。「大丈夫、自分でできます。…誰の助けも要りません。」プライドが、そう言わせるのです。自分の人生を振り返って、プライドは何かの役に立ちましたか。詩篇10：4は、高慢な人は自分のことばかり考えていて、神のことはまったく考えないと語ります。

詩篇 10:4 悪者は高慢を顔に表して、神を尋ね求めない。その思いは「神はいない」の一言に尽きる。

プライドが悪者の目をくらまし、神など必要ないと思わせるのです。もっとひどい場合は、そんな自分たちを神がそのまま受け入れるべきだ、自分たちはそれにふさわしい者だと思ふのです。私の父も生前そのようでした。神の存在を否定しているのに、こんなことを言うのです。「もし本当に神がいて天国があるなら、僕は天国に行けるよ。今まで殴った奴らはみんな殴られて当然の奴らばかりだったから。実際、僕が殴ったおかげで、多くの奴に神様助けると叫ばず事が出来たさ。だから、神がいるなら、僕は天国に行けるさ。」

先ほど言ったように、プライドに目をくらまされた悪者には、自分たちを神がそのまま受け入れるべきだ、自分たちはそれにふさわしいと思う人もいます。けれども、イエス・キリストを信じて、救い主として受け入れる以外に、神に受け入れていただくにふさわしくなれる方法はありません。プライドとは、神が成し遂げられたことを自分の手柄にしようとする事です。神にのみふさわしい栄光を自分のものにしようします。つまり、自己崇拜と言えます。高慢がどのような結果をもたらすかは、聖書の随所に記されています。サタンが天国から追放されたのも高慢が原因でした。イエス・キリストを救い主として受け入れる邪魔をするのも、プライドである場合が多々あります。プライドの高い人間にとって、永遠の命を得るために自力でできることは何もないと認めるのは非常に難しいからです。この世で私たちが何かを達成できるのも、一重に神の助けと支えのおかげなのです。神のみが私たちに命を与え、それを守ってくださるお方であると知れば、人生を正しい視点から見れるようになります。ダビデ王はこう祈りました。

詩篇 39:4 【主】よ。お知らせください。私の終わり、私の齢が、どれだけなのか。私が、どんなに、はかないかを知ることができるように。

命がいつまでも続くと思いついているのはなぜでしょう。私たちがどれほど弱者か気づいていますか。人生ははかないものだとわかっているのでしょうか。残念ながら、手遅れになるまでそのようなことを考えない人がたくさんいます。だから今日、私たちにこのような警告が与えられているのです。ですから、

2コリント 6:1-2 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みをむだに受けなないようにしてください。

2 神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。

明日まで先送りにしないでください。今日が救いの日です。今日が罪を告白できる日です。今日が、プライドを悔い改めることのできる日です。今日が人を赦すことのできる日です。今日が赦していただける日なのです。

ローマ 10:8-10 では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。

9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

赦されたいなら、ただ口で告白し、心で信じましょう。そうすれば救われます。「今は救いの日です。」明日まで待ってははいけません。明日はないかもしれないからです。祈りましょう。

主のみこころであれば、来週ペテロの手紙第一 5章の学びを終え、ペテロの手紙第一の学びの最終回となります。ぜひ来週もお越しください。

リフトの祈り
質問や祈りが必要であれば、礼拝後、ホール後方の「リフト」の看板のある場所にお越しください。お祈りします。ブライアン牧師、ナンシーさん、真美子さんが待機してくれています。